

令和3年度

## 「教育相談コーディネーター養成研修講座」

修了しました！



本講座は、平成16年度から県の施策としてスタートしました。これまでに小・中学校は2,297名、高等学校は1,114名の方が修了しています。また、特別支援学校は、平成26年度から「教育相談コーディネーター養成研修講座3」として237名の方が修了し、今年度8年目を迎えました。

### 小・中学校 「教育相談コーディネーター 養成研修講座1(小・中学校)」

小・中学校は受講者116名で、全6日間(机上研修含む)の日程を行いました。

チーム支援をテーマに、教育相談コーディネーターの役割や児童・生徒が抱える困りを理解するための講義、ケース会議演習等を通して、学校内外の人的・物的資源をコーディネートできる人材の養成を目的として実施しました。



#### 小・中学校 <内容>

1日目	「学校教育相談の現状と課題」	東京成徳大学教授	石隈利紀
	「学校コンサルテーションの基礎と援助シートを活用したケース会議」	東京成徳大学教授	石隈利紀
	「ケース会議の運営とケース会議演習について」		所員
2日目	「気になる子どもの理解と支援」		所員
	「プロフィールシートとケース会議シート」		所員
	「インクルーシブな学校づくり①～ユニバーサルデザイン～」		所員
	「不登校の理解と支援」	法政大学教授	渡辺弥生
	「ファシリテーターの役割と基礎技術」		所員
3日目	「保護者との協働」	関東学院大学准教授	鈴木公基
	※ケース会議シートを活用したケース会議①・②・③は中止		

4日目	「ケース会議シートを活用したケース会議④・⑤」 教育事務所指導主事、県立特別支援学校教員、所員
机上研修	「関係機関との連携①～児童相談所～」 児童相談所職員
	「スクールソーシャルワーカーの役割と連携について」 神奈川県教育委員会スクールソーシャルワーカー
	「関係機関との連携②～特別支援学校～」 県立特別支援学校教員
5日目	「関係機関との連携③～フリースクール等～」 NPO 法人星槎教育研究所厚木相談室室長 安田浩一
	「個別の指導計画と支援シートの作成と活用」 所員
	「ケース会議シートを活用したケース会議⑥・⑦」 所員
6日目	「校内支援体制と教育相談コーディネーターとしての取組」 公立小学校教員、公立中学校教員
	「インクルーシブな学校づくり②～合理的配慮～」 所員
	「研修全体の振り返り」 所員
	「協働チームと教育相談コーディネーター」 東京成徳大学教授 石隈利紀

～「教育相談コーディネーター養成研修講座1(小・中学校)」受講者のアンケートより～

- 一次的援助サービスが充実していると、二・三次的援助サービスを必要とする児童・生徒が減少することが分かりました。授業や学校経営が支援の上でも土台となる考え方をもとに、授業と学びのUDを明日から取り入れたいです。援助チームシート作成の中で、児童・生徒の苦戦や現状を見る視点が分かりました。日頃から児童・生徒の困りや苦戦を見取る時に活用したいです。また、ケース会議の中で多くの援助の手だてを知ることができました。
- 「気になる子どもの理解と支援」の講義で、「発達障害のある子どもへの対応はうまくいけばそのまま継続、うまくいかなければすぐやり方をかえる」とあったので、実践してみようと思いました(これまでうまくいくと、より改善して、となっていたので)。また、「うちの子、障害ですか？」という保護者に対して、どのように接することがいいのかを知ることができてよかったです。
- 新しく知ったことも多く、とても勉強になりました。自尊心を高めるために、「good enough」感覚を持つことの大切さもわかった。
- 保護者との協働という点で、自分自身で積極的に働きかけているように感じたので、相手の意志・意図も汲み取りながら働きかけていくことがコーディネーターの役割であること、担任としても使える方法だと感じ、とても学べました。
- ケース会議の事例を伝えたのですが、見たことのない児童をお互いに話し合うことで、新たな視点が得られることが分かりました。ケース会議には、色々な立場の人が参加する理由がよく分かりました。「参加してよかった」と思えるケース会議を開けるようになればいいと思いました。
- 児童相談所、SSW は、実際に関わる機会が多く、役割についても知っていたつもりでしたが、今回改めて資料や映像を通して学ぶことができました。今後も必要に応じて連携をしていきたいです。
- 実践報告を聞いて、どれだけ職員間の報・連・相が徹底されているかを見直さなければならないと思いました。自分の学年では、情報が学年職員全体に共有されていることが少なく、全員が困ってしまうことが多くあります。支援や指導に関しては特に自ら声をかけ、報告してもらったり、検討事項を見つけたりするようにしなければならぬと思いました。見えないところの原因を探りやすくするために、ケース会議等を円滑に進めるためにも、全員で生徒を見守るようにしていきたいです。
- 合理的配慮の検証の協議が大変参考になりました。自分自身が思っていたことや実践している事以外に教科によってもできることがまだまだたくさんあると感じました。例えば、ワークシートを全て記入したものにし、マーカーさせるとか口頭でのやりとりを増やすなど、学校の職員同士でも色々アイデアを出し合い、実行していきたいです。

## 高等学校 「教育相談コーディネーター 養成研修講座2(高等学校)」

高等学校は80名の受講者により、5月25日(火)から研修が始まりました。



インクルーシブ教育の推進に向けて、生徒が抱える諸問題への適切な支援と校内支援体制の構築のため、学校内外の人的・物的資源をコーディネートできる人材の養成を目的として実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大のため、一部机上研修となりましたが、12月の研修最終日までの7日間、受講者は教育相談コーディネーターとして実践力を高めるために、講義と演習に取り組みました。



### 高等学校 <内容>

1日目	<p>「神奈川の支援教育と教育相談コーディネーターの役割について」 所員</p> <p>「高校生の心理学的援助について」 筑波大学准教授 飯田順子</p> <p>「講座に期待すること」 所員</p>
2日目	<p>「思春期の精神症状への理解と対応～子どもの自傷と自殺、その周辺～」 横浜市立大学附属病院児童精神科部長補佐 藤田純一</p> <p>「ケース会議の進め方～ファシリテーションの視点を踏まえて～」 所員</p>
3日目	<p>「発達障害の理解と支援」 所員</p> <p>「ケース会議①・②」 所員</p>
4日目	<p>「不登校の理解と支援について」 独立行政法人教職員支援機構研修動画等の活用</p> <p>「スクールカウンセラーとの連携」 所員</p> <p>「ケース会議③・④」 所員</p>

5日目	「保護者との連携」	所員
	「関係機関との連携」	
	子ども教育支援課スクールソーシャルワーカースーパーバイザー 笠嶋瑞乃	
	「支援をつなぐ～支援シートの活用～」	所員
	「ケース会議⑤・⑥」	所員
6日目	「個に応じた多様な学習支援について」	横浜国立大学准教授 後藤隆章
	「個に応じた学習支援プランニング」	所員
	「教育相談コーディネーターの実際」	高等学校教員
	「通級指導導入校の実際」	高等学校教員
7日目	「教育的ニーズのある生徒のためのキャリア支援」	中央大学 古賀正義
	「特別支援学校のセンター的機能の活用」	県立特別支援学校教員
	「チーム学校として取り組む校内支援体制づくり」	高等学校管理職
	「教育相談コーディネーターの役割と校内支援体制について」	所員

～「教育相談コーディネーター養成研修講座2(高等学校)」受講者のアンケートより～

- ”生徒が”の主語に置き換えて物事に”何故”の背景を入れることで、私たちが冷静に判断することができ、適切な言葉掛けをすることができると思いました。
- 自傷行為は「心の痛み」への対処行動であることが理解できました。生徒の話に耳を傾け、まず受け取ろうとする姿勢をもつ大切さを学びました。また、孤立を感じさせない関係づくりによって、生徒がSOSを出しやすくなることが分かりました。
- ケース会議演習の中で、「背景」あつての支援策だということをあらためて感じました。多面的な視点で生徒をみることで、新たなことに気づけたので、生徒の背景をしっかりとらえることをさらに大切に、実践していきたいです。
- 学校が担っている役割、人とリアルに関わる場、人間関係を築く場、の意義を改めて理解しました。「能動的に依存できる」ようになることが自立であると学び、依存先(頼れる存在)を増やしていくことが生徒自身を助ける事にもなると思いました。
- チームとしての学校とはどういうものかを改めて考えさせられました。自分ができることや周りに頼ること、協力すること、チームとして動ける教員でいたいと思いました。研修全体を通して、生徒支援をチームで行うことの大切さ、組織づくりの必要性を改めて実感しました。



## 特別支援学校 「教育相談コーディネーター 養成研修講座3(特別支援学校)」

特別支援学校は、6月8日(火)より、  
32名の受講者で、講座をスタートしました。



この講座では、アセスメント、コンサルテーション、カウンセリングを3つの柱としています。困っている子どもについて、根拠をもとにアセスメントし支援を組み立てるために、さまざまな視点から講義・演習を行いました。今年度は、オンラインでの講義や演習を取入れながら、研修を実施しました。

特別支援学校 <内容>	
1日目	「特別支援学校のセンター的機能に期待されること」 所員
	「学校心理学の基礎」 帝京大学准教授 蒲地啓子
	「子どもの支援を4つの援助領域から考える～学校心理学の視点から～」 帝京大学准教授 蒲地啓子
2日目	「子どもの心理社会的発達」 所員
	「アセスメント(1)～行動観察によるアセスメント～」 所員
3日目	「学校コンサルテーション」 東海大学教授 芳川玲子
	「ケース会議をデザインする～ファシリテーションの基礎～」 所員
	「中学校・高等学校での巡回相談におけるケース会議の実際」 県立特別支援学校教員
4日目	「アセスメント(2)～自閉スペクトラム症の理解～」 所員
	「事例検討①・②」 所員

5日目	「保護者との協働～カウンセリングの視点から～」	所員
	「事例検討③・④」	所員
6日目	「事例検討⑤・⑥」	所員
	「関係機関との連携」	所員
	「インクルーシブな学校づくり～特別支援学校に求められること」	所員

～「教育相談コーディネーター養成研修講座3(特別支援学校)」受講者のアンケートより～

- 「もうまくいっていないのであれば、(何でもいから)違うことをしてみる」という言葉に勇気もらいました。これが正解！というのは誰にもわからない…と思って頑張る気持ちになりました。事例検討の記録、司会をして、それぞれの難しさを体験できた。記録の取り方の工夫について、グループで検討できたのがよかった。
- 巡回相談で、相手校に訪問する際には、その学校のことをよく知ってから下準備をしっかりして行く必要があると感じた。学校によって、文化が異なるということがよく分かった。後半の協議では、改めて物事には表裏一体という事を感じ、このことをこれからの教員の業務に生かしていきたい。
- 実践の場(演習)が多く、毎回学習になった点が多々あった。日々の現場で実践すること「見逃しではなく空振りはしてもよいこと」を胸に取り組んで行きたいと考えさせられた。
- 6日間通して、非常に有意義な経験をさせてもらいました。現在、担任としてできることもあれば、コーディネーターの立場としてできそうだなあと思うこと…様々なことを学ぶことができました。
- 事例検討で「学校アセスメント」という視点をもつことができました。個々の児童・生徒についての相談が主になると思うが、それを解決につなげていくためには、環境の一つである「学校」自体のアセスメントも必要になるのかな、と思う。学校は大きいので、簡単に変えることは難しいが、相談がしやすい、困っていることを担任が言いやすい学校は、解決もできる学校だと思うので、そのような学校をつくるためにコーディネーターができることはなんだろう？と疑問を持ちました。